

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

今日は何の日？ 5月20日

世界計量記念日…1875年、欧米17か国が「メートル条約」を締結。

勘違いシリーズその③

【パン屋編—同世代とちやいます！】

近所のパン屋さん。20年以上通っているでしょうか。私の母と同年のお爺さんが、今も元気でパンを焼いています。行くたびに毎回同じ会話から始まります。

「どっこいしょ～。ああ、『どっこいしょ』って言っちゃったよ～。これ言わないと動けないんだから、嫌になっちゃうねえ～」

(もう、200回くらい聞いたよ。)

お話好きの大将は、岩手県出身。農業高校を出て東京へ。郷里の話、孫の話、パンの生地の話、昔の暮らしの話、政治家の不祥事や大震災の話…色んな話をします。

戦時中の暮らしや学校の事・軍歌や流行歌等の話は、ヨネやんは十分についていきます。知識として学んだ事もあるし、子どもの頃に母親からしょっちゅう聞かされていましたから(歌は、ほぼ母から)。

ある時、政治家の破廉恥事件で怒っていたパン屋さん。

「こっちは、朝から晩まで汗水たらして働いてんだ。1個100何十円かのパンを売って、いくら儲けが出るってんだ。それを、政治家の奴らは他人の税金だと思って使い放題。領収書だって、政治家は白紙でもいいなんて、出鱈目じゃねえか。それなら、うちの経費も全部白紙でいいのか！」

興奮冷めやらない大将。でも、ヨネやんに一通り怒りをぶちまけたら、しょげてしまいました。

「なんだか、ばかばかしくなって来るねえ。真面目に働いてるモノがバカを見るなんて、

ねえ、ご主人。いつからこの国は、こんな風になっちゃったんですか？」

「どうでしょう？ 今の政治家はタガがはずれてしまって、『やらなきゃ、損』みたい」

「そこですよ。ねえ、戦争が終わるまではこんな風じゃなかったですよ。戦争に負けてから、変わったんじゃないの？ ご主人」

「えっ？ 戦争ですか？」

「覚えてるでしょ！ 食うものだってなかったし、家族も多くて、貧しかったじゃない。でも、こんな風じゃなかったよ。忘れたの？」

「いや、あの、忘れたというより、戦後生まれですよ、僕は」

「ウソでしょ。戦後って言ったって、戦後すぐでしょうよ。あの頃だって、もっと大変だったじゃない」

「いや、あの頃と言われても…」

「ダメだよ。そうやって悪いことだってすぐに忘れるのが日本人の悪いところなんだから。今の政治家だって、すぐに「みそぎ」が済んだとか言って、また出てくるよ」

「それは、そうでしょうねえ。でも、そもそも僕は昭和30年代ですよ、生まれたの」

「えっ？ そうなの？ 30年代？昭和？」
ヨネやんの顔をじっと凝視するパン屋さん。

「それにしちやあ……」

(そこで止めたらアカンやん。『それにしちやあ、老けてる』って続くんかい？)

「まあ、なんだね。昭和なら同じようなもんだね。でも、そうだとすると、やけに古い事をよく知ってるね。この前なんて楠公の歌まで歌ってくれたじゃない」

「♪青葉茂れる櫻井の～ですか？ あれも、母から聞いて覚えたんですよ。軍歌も全部、母からですよ」

「そうなの？お母さんから？ いやてっきり同じ歳だと思ってたよ、人が悪いなあ」